

平成21年度のはじまりにあたり

昨年度は中学生の全国大会での男子優勝、女子準優勝、高校選抜での女子三位入賞と中高生の活躍がめざましい年でした。これも中高一貫指導・U-15育成事業での関係各位の指導の現れと思います。この成果を今年の近畿まほろば総体の成功に向けていきたいものです。

さらに、今年度は、全弓連の公益財団法人に向けての動きに対して、県連としてどのように対応していくのか。中学校体育における武道の必修化・公認スポーツ指導員の育成等、いまや、弓道連盟は、弓引きの仲間内だけの組織でなく、広く一般の人にも目を向けた活動が要求されております。

そういった意味でも、ホームページを開設し広く情報を提供していく意義は大きいと思われまます。

皆さんからも、積極的な協力をお願いする次第です。

奈良県弓道連盟会長 吉本清信

◆百射会 (3月1日)

場所：橿原公苑弓道場 奈良市鴻池弓道場

参加者

橿原会場 男子：26名 女子：10名

奈良会場 男子：23名 女子：17名

▽ 男子の部

優勝 新子 修平 (五条) 86中

優勝 山口 亮二 (奈良) 86中

3位 矢野 有吾 (奈良) 82中

▽ 女子の部

優勝 山口 愉佳子 (奈良) 75中

2位 矢野 由起子 (奈良) 61中

2位 西田 ゆり (奈良) 61中

[奈良会場、井上ゆみ子さんからのレポート]

早春のさわやかな空気の中、奈良市鴻池弓道場で百射会が開催されました。恵まれた天候と参加者の協力を得てスムーズに進行し、午後7時までには百射を射終えることが出来ました。最後は互いに拍手でその努力を称えました。閉会式では深田副会長から「百射を引き通したことはとても立派なこと。これを自信としてさらに修練に励んでください」とのお言葉をいただきました。

■3月地連審査の結果

❖ 第219回 3月20日 橿原公苑弓道場
合格者数は1級120名、2級69名、3級14名、4級37名でした。

・足踏みの幅が総体に狭い。(自分の矢尺ですよ)

・道場内の歩行が遅すぎます。リズムの体得を。

などが判定会議での議題となりました。(特に高校生、中学生が理解できていない)

❖ 第220回 3月22日 奈良市弓道場
合格者数は1級90名、2級5名、初段49名、弐段24名、参段4名、四段は大和郡山弓道協会の高柳さんと、奈良市弓道協会の川嶋さんの2名でした。

この会場でも

・足踏みの幅が総体に狭い。

・道場内の歩行が遅すぎる。

が判定会議の議題となりました。指導者の皆案さんをお願いします。(

❖ 第221回 3月22日 橿原公苑弓道場
合格者は初段35名、弐段25名、参段2名、四段は大和郡山弓道協会の赤松さん、村上さん、西村さん、蒼穹会の吉岡さん、奈良市弓道協会の天野さんの5名の皆さんでした。

合格者の皆さんおめでとうございます。

(審査部)



新五段 誕生

近畿連合審査会で (3月29日京都武道セン

ター) 次の10名の方々が合格されました。

おめでとうございます。(敬称略)

下川 治子 矢野 由起子

松本 泰之 山口 亮二

中島 信作 大西 洋亮

加藤 順三 加藤 敬子

矢野 有吾 井戸上 博一

◆ 第27回全国高等学校弓道選抜大会

橿原高校 3位入賞 (団体女子)

3月20日(金)～22日(日)静岡県藤枝市静岡県武道館に於いて、全国高等学校弓道選抜大会が行われた。個人戦は各都道府県代表2名(北海道と地元静岡県は4名)98名、団体戦は、各都道府県代表1校(北海道と地元静岡県は2校)と前年度優勝校、技能優秀校の51校が参加した。女子団体戦において橿原高校が、県勢としては平成13年度の富雄高校以来8年ぶり2回目の3位入賞を果たした。奈良県勢の結果は次の通り。

【予選】

▽女子個人

鶴留彩花(橿原高校2年)4射1中【予選不通過】

木尾真奈美(橿原高校2年)4射2中【予選不通過】

▽男子個人

竹森健吾(法隆寺国際高校2年)4射3中【予選通過】

湧谷哲也(畷傍高校2年)4射3中【予選通過】

▽女子団体 橿原高校

(木尾真奈美・福西真歩・鶴留彩花・石川美佐希)

12射10中【予選通過】(通過16校中、3位通過)

▽男子団体 畷傍高校

(湧谷哲也・辻直樹・北村祐輝・榊本勇仁)

12射7中【予選不通過】

【決勝】

▽男子個人(射詰め)

竹森健吾(法隆寺国際高校2年)

×(射詰め1本目的中を逸し入賞ならず)

湧谷哲也(畷傍高校2年)

○○○○×(射詰め5本目的中を逸し入賞ならず)

▽女子団体

決勝トーナメント1回戦(12射)

橿原高校 8中 対 4中 好文学園高校(大阪)

決勝トーナメント2回戦(12射)

橿原高校 8中 対 8中 伊勢女子高校(三重)

(同中により1本競射)

橿原高校 3中 対 2中 伊勢女子高校(三重)

決勝トーナメント準決勝(12射)

橿原高校 8中 対 8中 祐誠高校(福岡)

(同中により1本競射)

橿原高校 1中 対 2中 祐誠高校(福岡)

(準決勝敗退につき、橿原高校の3位入賞が決定)



No.3

平成25年度の東京国体から、監督には、スポーツ指導員の資格を必要になりました。これは、指導者として、単なる技術だけの指導でなく、科学的・心理学的・社会的な面からも指導・監督できることを要求されているのではないのでしょうか。県連としても、来年度には、何とか講習会を計画して、会員にも資格を取っていただきたいと思っております。その節は多数の方が参加していただくようお願いいたします。

特別寄稿

弓馬術礼法小笠原教場の三十世宗家、小笠原清信

氏が昭和42年2月にラジオ・テレビで話されたときの原稿の一部を御分けします。

中楚狛大学藤原孝澄

小笠原流とは

小笠原流と云う呼称は古来から、小笠原家が宮中及び将軍家の礼式をつかさどっていた為、世間では小笠原流と称したのであって、自分で名乗ったものではない。武家礼法の確立は後醍醐天皇の御時小笠原常興により集大成され、足利尊氏によりこれが保護され、その後、殿中及び宮中の儀礼の中心となったのである。(中略) 又今日云う作法は明治年間小笠原清務により、一般常識としての作法を教育的に組織立ててこられたもので、武家社会の崩壊によって誰でも能力のある者が登庸される様になると武家では、家庭内で厳格な躰を行っていたが躰のない家庭から、登庸された人はいざの時自己の嗜みのなさを暴露し、「これではいけない」と知的教養と同等に行動の教養が必要な事が痛感され、学校に作法教育を入れる建議が出され、常識的な行動について学校で教える様になった。

本来躰と云う事は六才迄に家庭内で行われる事が望ましいので、情緒が分化し大人のもつ情緒性が出揃う事が大体五才位であり、又日常生活の基本的行動様式が独りで行われる様になるのも六才位迄である。

又言語にて表現出来る様になり、ある程度に語らいを確保するのもこの年齢であり、この時期に自分の意志を的確に表現出来、又人の話をよく聞き分けられる様方向付けが必要であり、性格の方向性、趣味の傾向もこの時期が最も大切なのである。然し現在の大人はいざと云う時行動にとまどう事が多い事も事実で、この為に大人に対する行動の教育として作法が考えられるのである。(以下次号に続く)